

JIS K 0125 改正の動向について（情報提供）

平成 27 年 1 月 28 日

概 要

JIS K 0125 : 1995（用水・排水中の揮発性有機化合物試験方法）について、法令の改正にあわせて 1,4-ジオキサン及び塩化ビニルモノマーの項目を追加するとともに、ホルムアルデヒドの JIS K 0102 からの移行を含め、全体の見直しを行うこととなった。

改正にあたっては、経済産業省委託事業、環境負荷低減のための工場排水試験法に関する JIS 開発「JISK0125 改正検討委員会」で原案を作成し、日本規格協会（JIS）を通じ、2016 年度の改正を目指している。

経 過

平成 21 年「人の健康の保護（告示 78 号）及び地下水の水質汚濁（同 79 号）の環境基準」に 1,4-ジオキサンと塩化ビニルモノマーが規定。さらに平成 24 年 5 月に水質汚濁防止法施行令の一部が改正され、同項目が排水基準や地下浸透規制項目に設定。

・1,4-ジオキサンは、上水分野で先に基準化されており、水道水の測定では、固相抽出 GC/MS 法に加え、ページ・トラップ GC/MS 法やヘッドスペース GC/MS 法も公定法として採用されてきた。しかし、排水の測定については、環境省告示 59 号付表 7 を拠り所としていたため、当初は固相抽出法のみであったが、平成 24 年の省令改正で、ページ・トラップ GC/MS とヘッドスペース GC/MS も告示（平 24 環告 84 号）に加わったことから JIS K 0125 についても追加、見直しを行うこととなった。

審議状況

- ・第 1 回 平成 25 年 8 月 13 日 経過説明と修正案の分担割り振り
- ・第 2 回 平成 25 年 10 月 8 日 修正案作成
- ・第 3 回 平成 25 年 12 月 16 日 修正案検討
- ・第 4 回 平成 26 年 7 月 17 日 修正案検討
- ・第 5 回 平成 27 年 1 月 21 日 修正案原案作成

今後の予定

平成 27 年 2 月 規格改正案委員会承認、JSA に提出

3 月 フォーマットの策定

4～5 月 JISC へのドラフト提出

11～12 月 パブリックコメント 2 ヶ月間

平成 28 年 2 月以降 官報公示、発行（日本規格協会）

※JIS K 0102 の改正と同時に行う予定。

現行と改正案【赤字・下線部分が修正及び新規追加】

現 行	改 正 案
5.1 パージ・トラップー GC/MS 法	5.1 パージ・トラップーGC/MS 法 <u>1.4-ジオキサンと塩化ビニルモノマーを追加</u> <u>(両者の同時定量はできない)</u>
5.2 ヘッドスペースー GC/MS 法	5.2.1 ヘッドスペースーGC/MS 法 <u>1.4-ジオキサンと塩化ビニルモノマーを追加</u> <u>(両者の同時定量はできない)</u> 5.2.2 <u>トラップ型ヘッドスペースートラップーGC/MS 法</u> <u>1.4-ジオキサンと塩化ビニルモノマーを追加</u> <u>(両者の同時定量はできない)</u>
5.3 パージ・トラップーGC 法	5.3 パージ・トラップーGC 法
5.4 ヘッドスペースーGC 法	5.4 ヘッドスペースーGC 法
5.5 溶媒抽出ーGC 法	5.5 溶媒抽出ーGC 法 5.6 <u>固相抽出ーGC/MS 法 (1.4-ジオキサン)</u> <u>環境省告示第 付表 7 を参考に追記</u> 5.7 <u>溶媒抽出・誘導体化ーGC/MS 法 (ホルムアルデヒド)</u> <u>附属書 A : 混合標準液の調製方法</u> <u>附属書 B : 予備試験操作 (パージ・トラップーGS/MS 法)</u> <u>附属書 C : 内径 0.53mm 以上のキャピラリーカラムのガスク</u> <u>ロマトグラフ質量分析計の条件</u> <u>附属書 D : 充填カラムのガスクロマトグラフの条件 (A)</u> <u>附属書 E : 充填カラムのガスクロマトグラフの条件 (B)</u> <u>附属書 F : ホルムアルデヒドのアセチルアセトン吸光光度法</u> <u>のよる定量</u> <u>附属書 G : ホルムアルデヒド標準液の調製方法</u> <u>附属書 H : ヘッドスペースーガスクロマトグラフ法</u>

その他情報

- ・引用規格 1.1 (特に使用する試薬) の見直し
- ・混合標準液の調製は、附属書 A に移動。
- ・試験に使用する水に関しての注意点 (ホルムアルデヒドの試験に使用する水)
- ・FID を用いたヘッドスペース GC 法 5.4.2 は、本文から附属書 (参考) へ移動。